

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部長兼血液浄化センター長	坂口 俊文
副医長	高山 東仁
医 員	矢野 卓郎
医 員	田村 渉

—概要—

4月から小林聡に代わり高山が着任した。高山は小林よりも臨床経験が長く、昨年度よりもさらに充実した4人体制となった。

7月から松下が産休に入ったため、3人体制となり、外来、病棟ともに、厳しい時期が続いた。手薄となる水曜日の透析室に、和歌山医大から岩下医師を派遣していただき、なんとかこの時期を乗り切ることができた。

松下にかわり、1月から田村が着任した。ようやく4人体制に戻り、少し余裕ができるかと思えたが、1月から入院患者数が激増し、定床200%を超える厳しい時期が続いた。重症患者さんも多く、4人全員疲弊しながらも、潰れることなく、なんとか切り抜けることができた。4月からも水曜日の応援として、和歌山医大から北医師を派遣していただいております、大いに助かっている。

腎臓内科の主たる業務は、腎臓専門外来、腎臓内科病棟、他科入院の腎機能異常患者の共観、入院透析の管理、腹膜透析外来、ICUでの血液浄化、血液透析用のバスキュラーアクセスの手術および血管内治療である。

腎臓専門外来は月曜日から金曜日まで1診+処置外来1診で行っている。高山の着任、矢野の臨床経験の増加等により、昨年より充実したものとなっている。

入院患者さんの治療に関しても同様、昨年度よりもさらに治療は充実したものとなっている。また、2012年4月の私達の着任以後最多の入院患者さんを抱えた1月からの怒涛の日々も、田村の着任により、なんとか乗り切れている。

共観は、他科入院の透析患者さんと、ICUに入室した血液浄化を必要とする患者さんが中心である。共観入院の表のとおり、主科入院とほぼ同数の共観を常に診ている。

入院透析に関しては、高山の発案により、タブレットを使ったフットケアの管理を始めた。文字での記録と共に、画像も残すことができるようになった。看護師、CEとともに透析患者さんのフットケアをさらに充実させていく予定である。

金曜日午後からバスキュラーアクセスの定期手術、水曜日午後から血管内治療を行っている。その他退院からの依

頼があれば、緊急手術、血管内治療も行っている。手術、血管内治療ともに矢野の技術が著しく向上し、安心して任せられる状況になっている。

研究面では、内科学会、腎臓学会、透析医学会でそれぞれ1演題発表を行っている。5月にロンドンで開催されたヨーロッパ腎臓学会にも1演題採択されていたが、演者が扁桃炎で高熱を出したため、残念ながら出席出来なかった。

—実績—

主科入院

入院目的	件数
腎生検	22
ネフローゼ症候群	8
IgA扁摘後ステロイドパルス	6
電解質異常	8
AKI	8
慢性腎臓病	49
AVF手術	54
透析導入	42
PTA(入院のみ)	17
その他	17
計	231

共観入院

共観科	件数
循環器内科	50
心臓血管外科	37
救命診療科	34
外科	16
脳神経外科	15
泌尿器科	13
整形外科	12
血液内科	7
救急科	7
形成外科	5
総合内科・感染症内科	5
耳鼻咽喉科	5
神経内科	2
内科	2
小児科	1
口腔外科	1
計	212

血液浄化実績	回
血液浄化センターでのHD	2,092
ICU・EICUでのHD CHDF	1,339
血漿交換	8
LDL吸着	21
エンドトキシン吸着	6

外来PTA件数：141件

### —今年度の成果と反省点—

臨床の忙しさにかまけて、研究の論文化が進んでいない。  
今後は論文執筆にも力を入れたいと考えている。

### —来年度への抱負—

増加する外来に対処するため、地域連携を強化しようと考えているが、昨年度は坂口の体調不良などもあり、なかなか思うように進んでいない。2016年度はもう少し先へ進めたいと思っている。

血液透析に関して、チーム医療を充実させたいと考えている。他施設見学などを予定している。